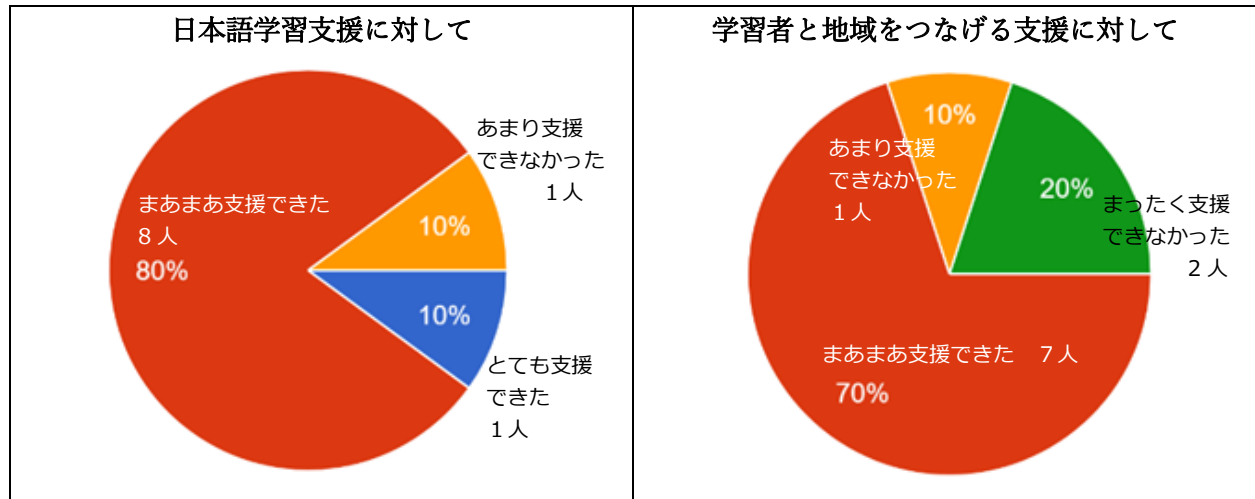


R2 モデル教室参加日本語交流員

回答状況

対象者数	15 名	回答者数	10 名	回答率	66.7%
------	------	------	------	-----	-------

回答内容



日本語学習支援ができたと感じる点

- ・学習者の実情、日本語能力レベルに合った日本語の内容で会話が成り立った時に支援ができたとき、例えばお互いの自己紹介等で出身地、年齢、出身地の様子（どんなところか）家族構成、趣味、好きな食べ物、等々の話^①ができた時にお互いに親近感が湧いてくるような感じの時に支援ができたと感じました。
- ・受講者さんたちが日本語を話すことそのものが支援になったと思います。
- ・日本語を聞いて文字にするときに、聞き取れなかった日本語をもう一度伝えたり、授業のスピードに乘れなかったときに先生にその旨を伝え、学習者さんが理解できるよう努めました。
- ・授業の内容を練習したりして相手がわかった時など。
- ・先生から出された問題をいっしょに考えて学習者の方が理解し例文を完成させたとき。
- ・学習者が不明な点があると思われた時に説明し、理解を確認できたとき。
- ・駒ヶ根市のモデル日本語教室に参加したとき、授業案が工夫されていて生活のなかで役立つ日本語学習が出来ていると感じました。
- ・①小さい子が退屈している時にみんなの邪魔にならないよう、その子の相手をした。
- ・②他のサポーターが大人の相手をしている時、正規の受講者ではないかもしれないけれど、親に同行している小学生たちと同じ課題を一緒に楽しくやった。
- ・③受講者が課題文作成で難儀されている時に、彼と少し雑談しながら、彼の言いたいことを引き出して、簡単な漢字や単語の発音、書き方を教えながら、文章を作成するお手伝いをした。
- ・④ごみの分別の勉強など、みんなが動きながら勉強する時は、参加しながら、その場の雰囲気を盛り上げる立ち回りをした。

日本語学習支援ができなかったと感じた点

- ・日本語交流員となったのが年末であり、活動する機会が一回しかなかったため。

R2 モデル教室参加日本語交流員

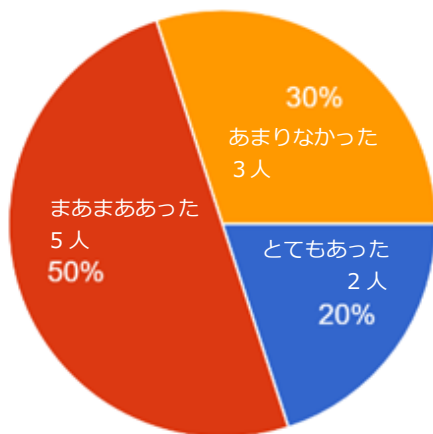
学習者と地域をつなげられていると感じた点

- ・学習者さんの好きなこと（写真）を伝えたところ、上田市で外国人からの写真を募集している事項につながりました（行政パンフ？の表紙を外国人から募集している）。
- ・学習者さんの身近に起きているゴミの問題は、直接本人にも影響があるため、上田市のゴミの出し方の絵を見ながら、一緒に考えました。
- ・上田市が行っているキャンペーンや施設の利用の仕方の説明などをした。
- ・私自身はたいした協力はできなかったが、『上田市みんなの日本語教室』自体が外国人居住者と地域をつなぐ目的でよく工夫され、練られたものだったので、受講者が普段の生活で分からなかったこと・いまいち不安だったこと（＝行政からの情報の入手、ごみの分別）の解消、地域とのつながり（主催や協力されている日本人との出会いと安心感）に成果があったろうと思います。私はその作業の一部をお手伝いできただろう……と言う程度かな？
- ・駒ヶ根市の商店街を巡って地元の方と会話ができた

外国人学習者と地域をつなぐことができなかった理由

- ・今回は駒ヶ根市での支援活動であったため、岡谷市在住の私にとってはあまり駒ヶ根市とつなぐ活動はできなかった。
- ・松本地域では受講者さんたちが地域外の方が多かったので、地域に繋ぐことができたかどうかは疑問です。ただこのモデル教室がきっかけで地元の日本語教室に通ったり、地元の催しに参加するきっかけになったかもしれません。
- ・どのような場面を想定しているのか、わかりません。地域をつなぐという機会がなかった。
- ・年末に交流員となったため、その機会がなかった。

自身の意識の変化



- ・実際に外国人に触れてみて、実感があった。また、さらに交流したいという意識が高まった。
- ・学習者が楽しみで集まってくる日本語教室にすることの素晴らしさ、難しさを思いました。
- ・交流員養成研修や一昨年上田市で開催された外国人集住都市会議などで耳にしたことが実際に起こっていることを目の当たりにし、交流員として何ができるかを考えるようになった。
- ・今回、受講者と先生、交流員でラインのグループを作りました。ここからもいろいろに広げていくことができると思います。
- ・一番意識したのは、やさしい日本語でゆっくり話す事です。私はもともと声が小さい方なので、はっきり話すことも心がけました。
- ・①自分（たち）でも、（反省や改良をすることで……）、地域の外国人の支援ができるかもしれない、という自信。
- ②いろんな人（日本人）とつながることによる協同作業のコツが少し分かったかなという前向きな実感。

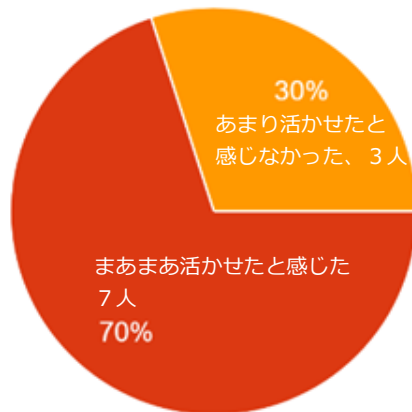
R2 モデル教室参加日本語交流員

③もう少しがんばらなくっちゃ！という気持ち。

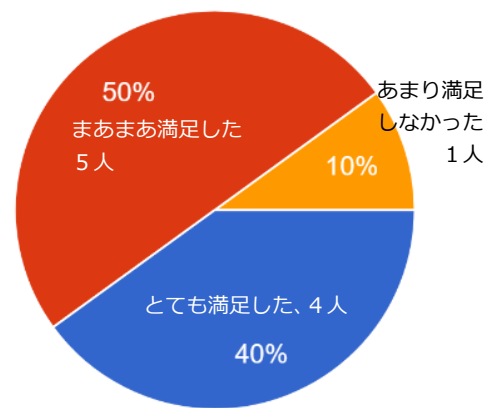
④《どんな人たちがやってるんだろうか》と言う冷めた気持ちから、《いざという時はこの人たちにも相談しよう》という前向きな気持ちへ。

- ・言葉を教える、と意識しがちですが、あくまで交流員は地域との繋げ役、とあたためて思いました。それは最終日に学習者さんの好きなことから市の写真募集の話に繋がったからです。もしかしたら、このようなパターンも交流員としての役割なのではないか、と思ったからです。今まで、どうにか覚えてもらいたい、という気持ちだけが先走っていたように思います。

研修内容がモデル教室で活かされたか



満足度



感想

- ・今回は、上田市役所の方がゴミの収集や災害について話してくださいました。学習者の反応としては、これらの内容が面白く役に立ったようでした。地域との繋がり、というならば、今回のように授業の中に行政からのアナウンスを取り入れて、それについて交流員が補助をする形にしても、いいのではないかと思います。身近な、具体的な内容のほうが地域を意識することにも繋がると思いました。
- ・日本語交流員は地域の日本語教室のボランティアとは違い、日本語を教えるわけではなく、受講者さんが日本語を話す雰囲気作りが大切だと思いました。また、今回はオンラインで参加者全員が自宅から参加できるのはとても便利でしたが、反面、対面方式で受講者さんの隣に座ってその人に合わせるように対応するのも醍醐味だったと思います。
- ・今回は学習者と支援者がライングループを作りました。このことは大きな一歩だと思います。しかしこれは稀なケースと思われます。最後まで残った学習者が4人、出身国が全て南米だったことなどが要因ではないかと思います。
- ・学習者の会話を促す質問の仕方など、もっと学びたいと思いました。今回の教室では、学習者の提案でLINEグループを作り、教室が終わってからも日々の何気ない会話をしています。このつながりが、学習者の日本での生活をより良いものにしていくことが出来ればと思います。
- ・もし私が逆の立場だったと考えて、学習者さんとお話ししましたが、日本語を分かりやすく伝えるのは難しく感じました。日本語を必要としている外国籍の方は多いと思いますが、日本語を学ぶところまでいかないう環境の方々もたくさんいるのではないかと懸念致します。
- ・交流の機会は少なかったが、実際に会話してみて外国人を身近に感じる事ができてよかったと思います。さらに研修で学んだノウハウを活用してゆきたいと思います。

R2 モデル教室参加日本語交流員

- ・何気ないお話をすることも必要と思います。
- ・今回、シラバスを構成してくださり、いろいろな企画を盛り込んでくださった小山コーディネーターは（いろいろご苦勞がございましたと思いますが）、いつも笑顔で、学習者に安心を与えて、本当に素晴らしい先生だと思いました。
- ・交流員は難しかったけれども、篠原先生、山本先生、塚田先生にも多く学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・地球人ネットワークの方々にはとてもよくしていただきました。
- ・昨年から参加させてもらっていますが、「日本語交流員」は、はっきり言って難しかったです。理由として、県が求める像と学習者が求めるものが違うこと、おおまかな基準で募集しているので非常に個人差があったからです。
- ・先生と学習者の間に立つ交流員という立場を上手く使ってもっと世間に周知されればいいのになあとと思います。
- ・オンライン学習のメリット、デメリットはあると思いますが、個人的には、意思の疎通をはかるという観点から考えると対面式がいいと思います。
- ・なかなか大変な活動だったと感じています。日本語学習支援だけではなく様々な問題、困ったこと等の相談に乗ってあげられるようになればいいなと思いました。今回岡谷から駒ヶ根まで毎回通いましたが、往復の電車賃だけでも1400円くらいかかり、車で移動した場合は高速代、片道1400円と出費が高くついたので長くは続けられません。
- ・明るく接し、来る方々をそれぞれ尊重している様子が素晴らしいと思いました。
- ・交流員の存在がご迷惑だったときも有ったかもしれないとおもいます。
- ・できるだけ時間をおかずに、学習者と共に多文化共生のための活動を進めていけたらと思っています。
- ・ま、残りの人生もそんなに長くはないだろう。元気に駆け回れるうちは、これからの日本の新しい社会に向けて（大袈裟!）、地域の人たち（日本人も外国人も）が楽しく過ごせる取り組みに踏み出してみたいですね。